

親知らずのトラブル

迷わず歯医者さんへ行こう!

永久歯は、12歳ごろに上下28本が生え揃います。そのあと14~5歳ごろから「親知らず」(第三大臼歯)が一番奥に生えてきます。この歯は、親の手を離れた年齢になってから生えてくるので「親知らず」、また知恵がついた年頃になってから生えるので「智歯」、と呼ばれています。

親知らずの生え方には個人差があり、上下4本全部生える方からまったく生えてこない方まで様々です。中には先天的に歯の元である歯胚がない方もいます。これは、現代の軟らかい食生活によってあごの骨が十分に発達しないため、歯がきれいに並ぶスペースができないからだといわれています。

ところでこの親知らず、生え方や周囲の歯との関係で周りの歯肉に炎症(智歯周囲炎)をおこすことがあります。親知らずがトラブルメーカーに変身したときは、迷わず歯医者さんを受診してください。

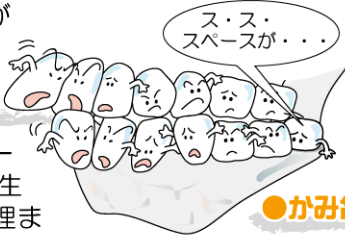


●前の歯を圧迫すると

親知らずは絶えず前に位置する第二大臼歯を圧迫します。その力の影響で、全体の歯並びが悪くなる可能性があります。

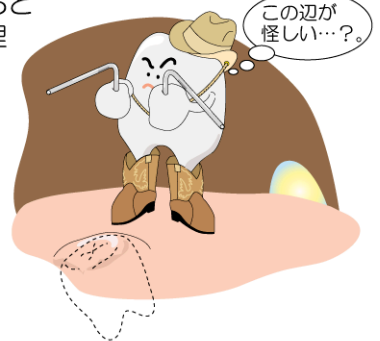
●きちんと生えていないと

親知らずはもともとスペースのないところに無理に生えてくるので、傾いたり埋まっていたり半分だけ頭を出していたりします。汚れがたまりやすく、反対側の歯肉にあたることも多く炎症やむし歯が発生します。



●すっきり埋まっていると

原因がわからないまま歯肉に不快な感じがあると
きは、埋伏歯が疑われます。



●かみ合わせが正しくない

かみ合わせたとき親知らずが周囲の歯や歯肉とぶつかり、口が開けにくくなったり、顎がガクガクするなど、あごの関節に問題がおきます。